自動車検査独立行政法人と軽自動車検査協会に関して、整備は受けずに検査だけ受ける人（形態）の方が、整備と検査をセットで受ける人（形態）より、不正が起こりやすいとの根拠について、実証的な側面からお示しいただきたい。

1．車検を受検する者を大きく分けると、車検時に、自らの車両の安全・環境を確保するために必要な点検整備を合わせて行うことを希望する者と、本来必要な点検整備を実施せずに車検費用を極力安くしようと検査のみを希望する者がいる。

2．車検時に点検整備を合わせて行うことを希望する者は、指定整備工場に車検を依頼することが一般的であるが、指定整備工場が受検者から依頼された点検整備に関しては、同工場が点検整備の品質を保証するという意味で、自ら厳格な品質の確認を行い、品質を一定レベル以上に保とうとする機能が期待できる。このため、同工場が点検整備の一環として行う「できばえ検査（点検及び整備のできばえをチェックすること）」については、不正が生じにくい状況にある。

3．一方、本来必要な点検整備を実施せずに車検費用を削減しようとし、検査のみを希望する者には、追加の整備費用が発生しないよう検査機関に甘い審査を望んだり、基準不適合にもかかわらず合格を強要する者もいる。
現に、検査法人等においては、警察の定期的な巡視などにもかかわらず、受検者から合格強要による暴力・威圧行為（約６００件程度／年間）に日々さらされている状況である。
このため、検査のみを行う形態においては不正が生じやすい状況にある。